

平成 22 年 11 月 18 日

中国「木構造設計規範改定委員会」第 2 回会議への出席・協議について

日本木材輸出振興協議会

中国「木構造設計規範」改定委員会との協議書(上海、2010 年 8 月 16 日締結)に基づき、当協議会の趙 川(業務課長)、神谷 文夫(特別研究員)、飯村 豊(特別研究員)は 11 月 8 日、成都において開催された中国「木構造設計規範改定委員会」第 2 回会議に出席し、中国「木構造設計規範」における国産材利用同等性の確立に向けて、中国側改定委員会との協議を行った。標記会議への出席については、農林水産物等輸出課題解決対策事業(農林水産省)等の助成・支援を受けて実現したものです。

標記会議の開会にあたり、中国木構造設計規範管理委员会主任 楊 学兵氏より、「日本木材輸出振興協議会の当改定委員会への正式な参加を心より歓迎し、貴会の趙 川氏を当規範改定の編集委員、神谷 文夫、飯村 豊両氏を貴会の派遣する専門家として受け入れる。当規範の改定に貴会の建設的な貢献を期待している。」旨の発言があった。

標記会議において、当協議会の 3 名は、日本産スギ、ヒノキ等の樹種が一般構造用製材として利用可能な樹種として中国「木構造設計規範」に明記され、また今回の改定を通じて当規範に軸組構法を盛り込むよう求めた。

会議後、当協議会からの出席者と楊 学兵主任をはじめ改定委員会の主要メンバーとの個別会議を開き、当協議会の提案した要望の達成に向けての方法論、データ整備などについて、具体的協議を行った。

また、改定会議の開催前後に、当協議会の 3 名は、北京で中国林業科学研究院・全国木材標準化委員会構造用材分技術委員会、上海で同済大学土木工程学院の専門家・有識者らとの意見交換をそれぞれ行った。



中国「木構造設計規範」改定第 2 回会議
(手前側の左から神谷、趙、飯村)